

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第3期第5回相模原市中央区区民会議		
事務局 (担当課)		中央区役所区政策課 電話042-769-9802 (直通)		
開催日時		平成27年10月8日(木) 14時02分～16時08分		
開催場所		相模原市立消防指令センター4階 講堂		
出席者	委員	21人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	16人(中央区長、副区長、他14人)		
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人	
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	<p style="text-align: center;">開 会</p> <p style="text-align: center;">あいさつ</p> <p>1 議 題</p> <p>(1) 平成26年度中央区区ビジョンの取組み状況について</p> <p>(2) 平成27年度「中央区拡大区民会議」の開催について</p> <p>(3) (仮称) 相模原市総合戦略の策定に向けた検討状況について</p> <p>2 その他</p> <p style="text-align: center;">閉 会</p>			

主な内容は次のとおり。(◎会長の発言 ○委員の発言 ●事務局の発言)

開 会

中央区長あいさつ

(要旨)

- ・皆様方には区民会議の委員として、また各団体の代表などの立場で、市政、区政の推進に大変お力をいただき御礼申し上げます。
- ・平成26年度中央区区ビジョンの取組状況については、区ビジョンの実現に向けて策定した中央区の運営方針に沿って、実施した事業について具体的に報告をさせていただきます。
- ・中央区拡大区民会議の開催については、「若い世代の地域活動、まちづくりへの参加について」をテーマに、区民会議委員に中心的な役割をお願いしつつ、広く区民の皆様にご参加いただき、より深い議論ができる機会をつくりたいということで提案させていただきます。

中央区区民会議会長あいさつ

(要旨)

- ・本日の議題は、まず、平成26年度中央区区ビジョンの取組状況についての報告があり、次に、11月に開催される中央区拡大区民会議の内容、進め方について確認をお願いします。
- ・区ビジョンや区民会議の存在意義とは、日本が直面している、例えば人口減少問題、それから東京一極集中という流れを目の当たりにしながら、相模原の特性を踏まえ、事前の対応策について具体的な準備をしていこうというものです。
- ・区民会議とは、「まち・ひと・しごと創生法」に基づいた戦略の一助となる会議とも言えます。皆様にはそれぞれの立場から、いかに区民の皆様にご力を発揮していただけるかという視点に立って、議論をお願いします。

中央区区民会議会長の司会進行により、議事が進められた。

出席者は21人であり、会議の成立要件を満たしている旨、事務局より報告した。

傍聴希望者無し。

1 議 題

(1) 平成26年度中央区区ビジョンの取り組み状況について

(事務局より説明を行った。)

- 「災害時における区本部等の運営」について、区本部、現地対策班、避難所運営協議会の連携による運営訓練を実施という記載がある。避難所運営協議会単位の防災訓練は、自治会が主体になって避難所となる小、中学校で行っている。一方、光が丘地区連合自主防災隊は、光が丘公民館が本部となる。ここに言う「区本部、現地対策班」というのは、区役所とまちづくりセンター及び公民館であり、職員は訓練を行っているが、地区連合との合同訓練を1回も実施したことがない。そこで、職員が行っている通信訓練の見学や、区役所と現地対策班及び地区連合との通信訓練を行いたい。
- 地区によっては通信訓練を実施していると伺っているが、現地対策班と地区連合の連携はとても重要であるため実施に向けて検討したい。
- 市と地区連合がそれぞれ整備した簡易無線の連携が課題である。それぞれ使用するチャンネルが異なる点については、一定のルールをつくって、いざという時に同報できるように準備をしておくべきではないか。
- 小山地区では補助金で無線機を購入し、各自治会と地区連合自主防災隊が通信訓練を毎月実施しているが、地区連合と現地対策本部や区本部との通信訓練についても、今後検討しなければならないと思う。
- 共助・自助・公助が一体となった取り組みはとても重要であるため、地域と区役所との連携した訓練ができるように進めていきたい。
- 「商店街振興」の一環であるプレミアム商品券について、使用先の大半が大型店やチェーン店に流れてしまい、地域の個人商店はほとんど効果がないと伺った。地元で使ってもらえるような対策をしっかりと講じてもらいたい。また、私どもの地区では、事業や地域のイベントに必要なものについて、多少割高であっても、できるだけ地元の商店で購入しており、それが何よりも振興につながると思っている。また、市の文具等の購入先について、1割ぐらいいは地元の商店から購入するような考えはないか。

- 区役所も商店街振興を担当しているので、類似する事業が実施される際には、地域の商店で使えるような仕組みづくりを会議等の場で提案していきたい。また、市の文具等の購入先については、現在も市内業者を優先しているが、さらに個人経営をされている商店への配慮も視野に入れていきたい。
- ◎ 商工会議所の立場から意見があれば伺いたい。
- プレミアム商品券については、過去と比較して少しずつではあるが、中小商店での使用率が上がっている。また、使える先を中小商店のみとしてはという意見もあるが、それでは、商品券そのものが売れなくなってしまう。そこで、商品券で買い物するときには、このようなサービスをするといった、地域の商店に来るような仕組みづくりをすることも重要である。また、市の文具等の購入先については、予算の関係などあるから、しっかりとした仕組みをつくらないと、なかなか難しいのではないかと思う。これらについては、零細の商店主にとって望まれるところであり、皆さんとともにいい意見があれば、どんどんやっていきたい。
- 「地域イベントの支援」に記載がある「相模ねぶたカーニバル」は、地域コミュニティの醸成に寄与することができたと書いてあるが、今年度から中止になった点について、総括されているのか。
- 「相模ねぶたカーニバル」は、これまで22回実施し、昨年で終了したところである。新たな展開として、昨年から開催している「ペインティングパフォーマンスグランプリ」において、地域の皆さんの参加により地域のイベントとして盛り上げていくといった趣旨を引き継ぎ、グレードアップしていくということで準備が進められていると伺っている。また、相模ねぶたカーニバル実行委員会から、昨年度で終了するというお話は伺っているということでご了解いただきたい。
- ◎ 「地域イベントの支援」の資料の表記として、来年度以降も継続する印象を与えるので、例えば「発展的解消として次年度からは…」といったコメントを実績欄に入れられないものかという感想は持った。
- 平成26年度の「相模ねぶたカーニバル」の実績を評価した表記であるということでご了解いただきたい。
- 全体の議論を通じて、このような取りまとめがされているおかげで皆さん非常に活発なご意見が出ているので、非常に重要だと思う。資料については、取組み状況の結果を受けて、次年度に向けた工夫や取組みの欄を設けていただきたい。また、区ビジョンの

重点目標及び基本方針を基準に事務事業名が整理されていると、その目的や効果について理解が深まったのではないかと。そして、今後の事業の展開について、効率化や事業の複合化による相乗効果や新規事業の検討などができたのではないかと。

- 区ビジョンの重点目標に沿った資料については、参考資料で配布しているが、市の取組みが網羅的に記載されているため、中央区の運営方針における重点目標に沿った形で再編集したものである。また、各事業の基本方針との関連や今後の事業展開などの表記については、より一層の工夫をしたい。

(2) 平成27年度「中央区拡大区民会議」の開催について

(事務局より説明を行った。)

- 募集方法と学生20名、在住及び在勤者が60名という参加者の募集比率について伺いたい。
- 募集方法は、広報さがみはら中央区版を使用するとともに、申込状況に応じて関係団体をお願いすることを検討している。また、参加者の比率は、第2分科会のテーマ設定が学生の地域参加であることから、概算20名計上した。
- 参加者については、本当に集まってくれるか心配であるが、誰が参加推奨をするのだろうか。また、前回の拡大会議の際、参加者から意見を聴取する機会を増やすべきだったと委員として反省している。分科会で意見交換が活発になると思うが、発言者が偏らないように配慮し、この会議が住民主体、区民主体の会議になるように、ぜひお願いしたい。
- 参加者の募集については、区民会議の委員がそれぞれ所属する団体の構成員や、出席する会議等で積極的に呼び掛けていきたいと思う。また、私は、分科会のコーディネーターをさせていただくが、参加した皆さんができるだけ発言ができるよう気配りをして進めていきたいと考えている。
- ◎ 昨年の拡大区民会議は、発言者が限定されたという課題を踏まえ、少人数形式の分科会で個別テーマについて議論を深めるという試みである。今後も、試行錯誤を重ねるかと思うが、翌年度以降の拡大区民会議につながればよいと思っている。
- 参加者の意見が実現に向けて第一歩を踏む可能性もあるということを前面に出して募集すれば、学生や若い方の参加が望めるのではないかと。
- 若い世代に自由に話をさせる機会は大変大切だと思うので、結論を急がず、次につな

げられるような話し合いそのものを残していくことが重要ではないか。時間をかけて次の世代に引き継ぐというのは私たちの役目かなと、そのように考えているので、分科会に期待したいと思う。

◎ 若い世代のお母さん、お父さん方に参加していただくための工夫について意見があったらお願いしたい。

○ 昨年参加された子育て世代の感想をお聞きしたら、参加者の年齢層が高かったため、意見を言える雰囲気ではなかったと伺った。分科会形式にさせていただいたので意見が言いやすいと思う。一方で、せっかく若い世代に関心を持っていただいた年齢層の高い方が参加に迷うのではないか。若い世代へのアドバイザーとして、優しく地域を見守っている貢献している素晴らしい方々がいっぱいいるということを若い人たちに知ってもらうためにも、年齢層の高い方にも是非参加していただきたい。また、若い世代がちょっと生意気なことを言ったりするかもしれないが、ほほえましいなと思って聞いていただければありがたい。そして、子育て世代の悩みを地域で理解が進めばよいと思うので、ぜひ、分科会で意見を吸い上げて欲しい。

◎ 子育て世代と日常接している立場から、意見があれば伺いたい。

○ 子どもの年齢が0歳～6歳までではなく、小学生も中学生も、もちろん高校生を養育している方も子育て世代である。子どもがだんだん大きくなれば地域とのかかわりはとても増えてくると思うが、特に子どもが小さいうちに、なるべく早くから地域で活動することが子育てにとって大変重要あることを親御さんにはっきり伝えていきたいと考えている。そこで、保育園の園長先生にも参加要請したいと思っている。

◎ まちづくり会議委員の立場から、意見があれば伺いたい。

○ 昨年参加された方から良かったよと言ってもらえた。基調講演やパネルディスカッションが非常にためになった、いろいろな人の話が聞けたことで、同じようなことを思っている人がたくさんいることを感じられたのではないかということだと思う。参加される方は意欲を持っている人たちなので、多くの方が参加できる企画はいいことだと思う。

(3) (仮称) 相模原市総合戦略の策定に向けた検討状況について

～「まち・ひと・しごと創生法」に基づく戦略～

(事務局より説明を行った。)

○ どんな対策を立てても、人口減は避けられないと思う。したがって、人口減を前提に

対策を立てていくことがすごく大事だと思っている。例えば、市のほうも民営化をどんどん進めていかないと財政が立ち行かなくなるのではないか。また、地域の担い手も減少することが避けられない。自治会加入率を考えず、何も行事をしないで自治会員を集めて自分たちだけでささやかにやっていけば、組織は維持できる。しかし、自治会は行政の下請になっている部分があるので、行政は非常に滞るだろうと思っている。そういったことを考えていくと、自治会運営への対策や考え方もしっかり検討していただきたい。

- 孤独な高齢者はそうでない人に比べて介護サービスを受けたり、認知症になったりするリスクが高いと聞いている。高齢者がいかに元気でいてもらわないといけないかを考えなければならない。例えば、パークゴルフ場をつくって、元気に高齢者が交流を深められるような場所を提供するといった、介護予防につながる政策を市は率先してやるべきである。
- 就職世代、住宅購入や子育てする世代が転出超過とあるが、我々の認識の中では、この部分がどうなっているのかよくわからない。ということは、地域づくりと密接に関連があると思う。このような世代が転出していってしまうということは、地域そのものが若者世代の定住に向けた仕組みになっていないと読み取れる。そうだとすると、若者世代の定住促進をどうするかということが将来の人口対策において重要な課題になってくるが、その点がさらっと書いてある。もっと具体策を盛り込んでいくべきである。
- 私も地域の人に言われたが、保育園に入ろうと思ったら入れない、住宅ローンを払うのは大変だから引越をしようかという話もあった。結婚から子育てまで切れ目ない支援ということで、まちづくり懇談会でも議題としたが、学童保育を6年生までにはできないか、といったことが地域の要望である。核家族化が進み、若い者だけでの子育てはなかなか大変である。祖父母力があれば、また子どもを生みたいということだと思う。今後、高齢者が増加するのだから、その人たちの力をどうやって活かしていくかについても、課題解決の一つとなる。
- 地域に魅力があれば何かしらのメリットを感じて、そこに定住するのではないかと思う。私の年齢からすると、地域のことに関心のある女性だと思いが、逆に言うと、働き盛りの男の人がなかなか参加できない現状にあるのではないか。仕事をしながら、地域と関わりを持つことは難しいが、もっと自分がやれることを探せるような環境づくりを年配の方々に導いていただけると、ものすごく地域活動に入りやすいので

はないかと感じている。

○ 人口が減少すれば、税収も少なくなるわけだから、最終的には予算の重点化と優先順位を明確にすることにつきる。また、高齢者対策は、まず認知症対策や介護予防ではないか。色々なアイデアがあるので、そういう点を市として、区として早めに取り組むことが大事であるとする。

○ まず、ここが住みやすい、いいなというところをアピールしないことには成り立たないと思う。例えば、災害に強いまちであることをアピールするようなポイントは多々あると思う。他の地域からの流入を考えて、その人たちがいいなと感じたことが口コミ、宣伝みたいな形で、いい相乗効果も生まれるのではないかなと思う。

ソフト的なところについては、どこの地域でも必ずやると思う。高齢者社会に向けた介護予防などは、どこも同じようなことをやっているのだから、特徴が出てこないと思う。だから、相模原市としてアピールすべきところを徹底的に洗い出して、ここに定住したいという施策にしたらかどうかと感じた。

● 地方創生の戦略をつくる上でポイントとなるのは、高齢者の方が増えて、若い人が減るといふひずみが出てくるので、それを何とか抑制しようというのが1つある。一方、人口減少というのは進んでいくものの、都市の魅力を高めて、住みよい社会をつくっていかうとの2本立てで策定したいと考えている。市の最上位の計画である総合計画についても、人口減少を前提に、職員の削減、行政の効率化、介護予防も重点施策として位置づけている。今回策定する総合戦略は、特に人口減少に焦点を当てた中で施策を見ていかうというように記載したい。また、若い世代の転出というのが衝撃的だというお話があったが、これは一番の課題だと思っている。以前は東京23区のほうから相模原市へ転入する若い方が多かったが、都内の地価が下落したというのものもあるが、現在は逆流現象が起きて、若い方が23区へ転出している。そこで、雇用の場の創出といった面についても重点的に検討してやっていきたいと思っている。定住のためには都市の魅力を高めなければいけないというご意見も何人かからいただいたので、そうした面も含めて、策定させていただきたい。

2 その他

委員より情報提供

○ 「第2回ペインティングパフォーマンス・グランプリ2015」の開催案内

事務局より連絡事項

- ・次回以降の区民会議の日程について

第3期第6回は、11月15日（日）午後1時から午後5時まで「相模原市中央区拡大区民会議」として開催する。

第3期第7回は、2月頃を予定する。日時・会場等は決まり次第連絡する。

閉 会

中央区区民会議副会長あいさつ

（要旨）

- ・区民会議の中で解決すべき課題や、相模原市総合戦略においても地域で取り組むべき事柄も今後出てくると思いますが、みんなで協力して取り組みましょう。
- ・拡大区民会議は、できるだけ若い人の意見を吸い上げようと企画となりました。去年は、地域で活動されている方の意見が中心で、どうしても若い人の意見が出にくかったという反省があるので、若い人が発言しやすい運営を心がけていきたいと思います。また、皆様方からも若い方々の参加について地域で働きかけていただいて、拡大区民会議が成功するよう、ご協力をお願いします。
- ・本日は、お忙しい中、出席いただきましてありがとうございます。以上をもちまして中央区区民会議を終了いたします。

以 上

第3期第5回相模原市中央区区民会議 委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	井狩 芳子	学識経験者（和泉短期大学）	会長	出席
2	石井 トシ子	相模原市公民館連絡協議会中央区ブロック		出席
3	井上 政市	相模原交通安全協会		欠席
4	浦上 裕史	一般社団法人相模原市観光協会		欠席
5	河本 博	大野北地区まちづくり会議		出席
6	木内 哲也	一般社団法人相模原市医師会		出席
7	木村 清	横山地区まちづくり会議		出席
8	坂本 洋三	相模原市地区社会福祉協議会連絡協議会中央区連絡会		出席
9	佐々木 亮一	公益社団法人相模原青年会議所		欠席
10	清水 洋子	相模原市私立保育園園長会		出席
11	代田 昭	中央地区まちづくり会議		出席
12	関戸 丈夫	田名地区まちづくり会議		欠席
13	武井 弘吉	小山地区まちづくり会議		出席
14	竹田 幹夫	星が丘地区まちづくり会議		出席
15	田代 明寛	清新地区まちづくり会議		出席
16	田所 昌訓	相模原市自治会連合会	副会長	出席
17	千葉 更男	公募委員		出席
18	永井 廣子	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
19	中西 豊和	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
20	長谷川 光義	上溝地区まちづくり会議		出席
21	久松 伸	学識経験者（麻布大学）		出席
22	平林 清	光が丘地区まちづくり会議		出席
23	本郷 永子	公募委員		出席
24	宮津 敏信	公募委員		出席
25	横山 房男	相模原商工会議所		出席